

日本学術会議 公開シンポジウム (参加費無料)

社会協働と地域社会における 社会ビジョン創成への挑戦

日時: 平成 29 年 9 月 5 日(火) 13:00~17:15

場所: 西之表市民会館

主催: 日本学術会議環境学委員会環境科学分科会

〃 化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会

共催: 公益社団法人化学工学会

開催趣旨

今、社会的な課題解決と先端的な研究成果をつなぐ新たな仕組みを作ることが重要視されている。そのためには、まず、新たな未来社会や産業構造を作りあげていく将来構想を掲げ、そこからのバックキャストにより、必要な要素技術を抽出していく、ビジョン・オリエンテド・リサーチともいえるアプローチが必要である。特に、地域社会の未来ビジョンを作りあげるのは、その自治体と住民であり、研究者は地域社会に適合した複数のシナリオを地域と共に考え、分かりやすく選択肢を提示する「技術の見える化」と「協働メカニズム」の確立が重要である。それには、地域の基幹産業についても配慮した研究とそのコミュニケーションが必須である。本シンポジウムでは、種子島での先進的な取り組みを通じて考える。

プログラム

13:00 第一部

開会挨拶

大政 謙次 (東京大学名誉教授, 学術会議第二部会員)

田淵川 寿広 (中種子町長)

講演 1 「社会協働と地域社会における未来社会ビジョン創成」

阿尻 雅文 (東北大学教授, 学術会議第三部会員)

講演 2 「ライフスタイル・シナリオの構築と協同」

青柳 みどり (国立環境研究所主席研究員, 学術会議連携会員)

講演 3 「種子島における産学公民の連携への取り組み」 菊池 康紀 (東京大学特任准教授)

講演 4 自治体が描く種子島の未来社会ビジョンと取組 八坂 俊輔 (西之表市長)

講演 5 高校生が考えるエネルギーの未来～対話型ワークショップを通じて～

15:00 休憩

(種子島高校生徒)

15:15 第二部

講演 6 「島々とサトウキビ～これからの在り方～」 杉本 明 (サトウキビコンサルタント)

講演 7 「ヘルスケア IoT 技術の社会実装の試み 山川 俊貴 (熊本大学助教)

～てんかん発作, 居眠り運転, 熱中症の予知に向けて～

講演 8 「スーパー安納芋プロジェクト(仮)始動」 加納 学 (京都大学教授)

講演 9 「廃食用油の高品質燃料化を実現する新技術の導入」

松岡 拓郎 (NPO 法人こすも副所長)

総合討論

司会: 福島 康裕 (東北大学准教授)

閉会挨拶

藤田 照典 (三井化学株式会社シニア・リサーチフェロー, 特別研究室長, 学術会議第三部会員)

17:15 閉会

お問合せ・参加申込先: 化学工学会事務局 aida@scej.org 当日参加可能(どなたでも参加頂けます)